

# 大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会（現地視察）

## 意見交換会 要旨

日時：平成 29 年 10 月 11 日(水) 16:30～17:15

場所：大井川管理事務所 3 階会議室

### 【議事】

1. 現状と課題について
2. 今後の予定

### 【議事要旨】

#### 1. 現状と課題について

**事務局説明** 事務局より、大井川流砂系の領域区分、各領域における現状と課題について説明

**主な意見等** ■課題の構図

- 「“陸”では土砂生産の多さが、“海”では海岸侵食が課題となり、陸の土砂をどう届けるかという大きい構図がある。その間の河道では土砂堆積の問題があり、どう連続性を確保していくのが課題である」旨の意見。
- 「海岸は海岸事業で汀線を維持しているのに対し、上流の領域では土砂が堆積して課題となっており、海岸から見れば“お宝”が眠っている状態。河口部付近にも土砂が溜まっており、やせる瀬戸際にある海岸とはコントラストがある」旨の意見。
- 「海岸では、土砂が河川から流出することを期待するが、河川ではその土砂がむしろ溜まって困るという状況を見て、“出したい”と“欲しい”がミスマッチしていると感じた」旨の意見。

#### ■ダム領域

- 「寸又川のダムは満砂しても機能は果たせるが、本川ダムの容量は下流に対して重要な役割を持っており、流入土砂量が多い中で、堆砂問題は後々大きな問題になっていくと思われ、今のうちから最適な策を模索していくことが重要である」旨の意見。

#### ■河道領域

- 「総合土砂管理では、一般には河道が目標を持っていないように思えるため、川の方針も検討してほしい」旨の意見。
- 「国内でも中流域でこれほど立派な礫河原は珍しい」旨の意見。
- 「環境については、時系列での変化を整理した方がよい。直轄区間は河川水辺の国勢調査のデータがあるため、植生や生物の増減の傾向を把握し、それが土砂動態とどう関わっているか整理してほしい」旨の意見。

#### ■基本方針

- 「基本方針には、一般に流砂系の連続性を確保することを盛り込むが、大井川の場合、自然の営力だけでは難しいと感じた」旨の意見。
- 「将来的には、人為的に運ぶことが基本になるような計画にならないように努力したい」旨の意見。

#### ■土砂動態の把握

- 「本川上流側からの土砂供給がない中で、寸又川や榛原川からは多くの土砂生産があるが、指定区間では砂利採取を多く実施しており、土砂生産と採取量、河床変動量のバランスを把握する必要がある」旨の意見。
- 「どういう流況であれば円滑に土砂が流せるなどの議論が出来るよう、土砂量のみでなく、流量と土砂を組み合わせ整理してほしい」旨の意見。
- 「山地部では堆積土砂がいびつなとがった形をしているが、河道では丸い。大井川のような急勾配で掃流力の高い河川で、摩耗破碎の影響が気になる」旨の意見。

#### ■数値計算

- 「網状流路を一次元河床変動計算で計算すると、小さな流量ほど合わないため、部分的に一次元と二次元の計算を行って差異をチェックしてほしい」旨の意見。

#### ■モニタリング

- 「掃流砂は河床に残るが、浮遊砂は流下してしまうため、浮遊砂量の調査をしてほしい」旨の意見。
- 「将来的に、面的なデータをベースに管理、モニタリングをしていく事も念頭に置くとよい」旨の意見。
- 「河口テラスの挙動のように、分かっていないことに対するモニタリングが必要である」旨の意見。

#### ■対策

- 「上流での砂利採取が敬遠されることに対し、広く浅く掘る砂利採取を進めるより、ポケット浚渫による待ち受けなどの方法も考えられるが、この場合には樹林化の懸念もある」旨の意見。
- 「河川の土砂は、海岸が想定している土砂とは質が違うものもあるため、受け手となる海岸では、ロスせず、有効的に利用する方法を考える必要がある。」旨の意見。
- 「海岸では、河川からの供給が期待される状況を作っていく必要がある。現在行われているサンドバイパスは効果的な対策であり、継続的に進めていく仕組み、技術開発や地域への広報なども必要である」旨の意見。
- 「今できる事と出来ない事を整理するとよい」旨の意見。

## 2. 今後の予定

事務局説明 事務局より、今後の予定について説明  
主な意見等 ● 特になし

以 上